

第 2 学年英語科学習指導案

日 時 平成 17 年 9 月 30 日 (金) 5 校時
場 所 一関市立山目中学校 2 年 E 組教室
学 級 2 年 E 組 (男子 15 名 女子 16 名 計 31 名)
指導者 教諭 及川 千佳

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (New Horizon English Course 2)

2 単元について

(1) 教材 (学習材) について

本単元では、ホームステイの話題を取り扱っている。健が夏休みにアメリカへ行き、ホームステイを経験するという設定である。ガイドブックを通してホームステイについて知り、考えることとなる。また、実際に経験したり、他の参加者の相談などを通して、生活様式や文化の違い、コミュニケーションの大切さについても考えさせる題材である。

近年、海外旅行だけでなく国際交流事業が盛んになり、中学生がホームステイをすることが珍しくなくなってきたが、本校の生徒にとってはそれほど身近なものとはなっていない。しかし、将来はホームステイを体験してみたいという生徒も多いことから、本題材を通して、ホームステイの魅力やコミュニケーションの重要性について考えさせる機会としたい。

言語材料は助動詞 (have to~, will, must) を扱っている。助動詞は 1 年生で「can」を学習済みであり、「助動詞 + 動詞の原形」という形は動詞の語形変化がなく、比較的理解しやすい文法事項である。また、表現の幅を広げることが可能になるため、自己表現活動にも有効である。

(2) 生徒について

明るく、積極的な生徒が多い。男女の仲も良く、協力して授業を盛り上げようとする姿勢がみられる。その反面、英語を苦手と感じている生徒も少なくない。特に「書く」ことについて抵抗を示す生徒が多い。

授業中は、生徒が発言しやすい雰囲気になることをねらい、「話すこと」「読むこと」など声を出す活動を重視して指導している。そのため、下位の生徒でも声を出すことをいやがらずに取り組むことができるようになってきている。

助動詞は can (do, does) が既習であるが、動作や行為を表現する時に頻繁に使用されており、形や意味など比較的定着している。本単元では、助動詞 (can) と対比しながら、助動詞自体の働きなどの理解を深めさせていきたい。

(3) 指導について

単元指導構想

「聞くこと」については、1 年生で学習した、have、has が have to ~、has to~ の形になると、音が変化することなどの発音に注意しながら、英語が持つ音調や区切り等に気をつけさせたい。また、内容については、ピクチャーカードやイングリッシュパイロットを使用して、視覚から

も理解できるようにしていきたい。「読むこと」については、本文の意味を理解させながら、本文を最低でも10回読ませることにより、チャンツを利用しながら、英語がもつ音に慣れさせるとともに、独特の音調を味あわせたい。「話すこと」については、教科書をしっかり読めるようにしたうえで、その内容を自己表現できるまでに高めていきたい。「書くこと」については、学習シートを工夫することにより、「書くこと」への抵抗感を少なくさせ、自己表現までもっていききたい。

個に応じた指導

下位の生徒には英語にルビを振った特別な教科書を準備して、読むことへの手助けとする。また、板書についても動詞を赤で書き、視覚からも理解できるようにする。

自己評価

プリント内に自己評価項目を設け、指導計画の「基礎・基本」や「評価規準表」に対応した自己評価項目を設け、次時への指導構想としたい。

3 指導計画（6時間）

Unit 4

Starting Out	-----	2時間
Dialog	-----	1時間
Reading for Communication	-----	2時間（2/2）
Unit 4 まとめ	-----	1時間

5 本時の指導

（1）ねらい

「must not」を用いて、身の回りのことについてアドバイスすることができる。
教科書本文を読み、カルロの相談内容の概要を理解することができる。

（2）評価計画（本時）

評価規準	具体の評価規準		
	十分満足できる（A）	概ね満足できる（B）	支援を要する生徒の支援（C）
【表】 ・ must not を用いて、アドバイスする文を書いたり、発表することができる。	must not を用いて、アドバイスする文を適切に書いたり、発表することができる。	must not を用いて、アドバイスする文を書いたり、発表することができる。	個別に発音練習や基本表現の練習をさせる。
【理】 ・ カルロの相談内容の概要を理解できる。	カルロの相談内容を具体的に理解できる。	カルロの相談内容の概要を理解できる。	語彙や読み取りのポイントについてアドバイスする。

(3) 本時の展開

段階	基礎・基本	学習活動	時間	指導上の留意点・評価・援助
導入 10分		あいさつをする。 前時の確認をし、本時の学習課題を考える。 学習課題を確認する。	10	元気よくあいさつをさせる。 身近な話題を提示し、想起しやすいよう配慮する。
アドバイスを考えよう！				
展開 35分	<p>【表】 must not を用いて、アドバイスする文を書いたり、発表すること。</p> <p>【理】 カル口の相談内容の概要を理解すること。</p>	<p>基本文の確認と練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型・意味・用法を確認する。 ・個別に読みと視写を行う。(シート) ・練習問題を行う。(シート) <p>自己表現の作文を行う。(シート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1) ~ (4) を行う。進んだ生徒は応用も行う。 <p>考えた文を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞きながら、英文や使用場面の適切さなどを考える。 <p>教科書(p 41)の語句と内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出語句の意味と発音を確認する。 ・本文のCDを聞く。 ・黙読する。 ・内容について口頭でQAを行う。(日本語) <p>本文の音読練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CDを聞く。 ・リピートする。(CD、教師) ・音読練習(全体 個人) 	5 10 5 5 10	<p>机間指導を行い、個別に読みと視写を確認する。</p> <p>< 援助 ></p> <p>Tool box を紹介すると共に机間指導により個別に支援する。 < 援助 ></p> <p>must not の文を用いてアドバイスする文を書いたり発表したりできたか。(発表・観察) < 評価 ></p> <p>口頭で本文の内容を確認する。</p> <p>概要についてのQAになるように留意する。(観察) < 評価 ></p> <p>下位の生徒にはふりがな付きのコピー本を用意し、音読の手助けとさせる。また、机間指導で個別に支援する。 < 援助 ></p>
まとめ 5分		<p>本時の学習を振り返り、自己評価を記入する。</p> <p>家庭学習や次時の確認をする。</p>	5	学習の成果を各々が確認できたか確認する。

Unit 4 Homestay in the United States (Reading for Communication 2)

組 番 氏名 _____

What day is it today ?

What's the date today ?

学習課題 : アドバイスを考えよう!

文法ポイント: must not + 動詞の原形
()

あなたは / してはいけない(2語) / 食べる / すぎる / たくさん

< 声に出して、3回読んでから、5回書いてみましょう。 >

< 練習問題 > 次の日本語に合うように、英文を書きなさい。

(1) (視力が下がってきた友達に)

あなたは、テレビを見すぎではいけません。

(あなたは してはいけません 見る テレビを すぎる たくさん)

(2) (遊泳禁止のところで泳いでいる人に)

あなたは、ここで泳いではいけません。(あなたは してはいけません 泳ぐ ここで。)

< 自己表現 > あなたが次の立場なら、どんなアドバイスをしますか？「must not」を使って、答えてみましょう。(主語はすべて「You」としてください。)* 動詞表を見てもいいです。

(1) あなたはお医者さんです。

【お酒(sake)を飲みすぎの患者さんに】ヒント: 飲む(d)

(2) あなたはお母さんです。

【スーパーに行って、子供におこづかいの使い方を注意するとき】ヒント: 買う(b)

(3) あなたは先生です。

【授業中に寝ている生徒に】ヒント: 寝る(s)

* Tool box も参考にしてみましょう。

(4) あなたは _____ です。

【 _____ に】* 誰かに「must not」を使って、アドバイスしてみましょう。

Tool box

in the classroom (教室で)

in the house(家で)

in the room(部屋で)

on the street(道路で)

in the kitchen(台所で)

in class(授業中)

応用:「～しなければなりません。でも、～しすぎではいけません。」という文を作ってみましょう。

例) You must play, but you must not play too much.

自己評価

基本文の形や意味を理解することができましたか。

A

B

C

基本文をどういう場面で使用するか理解できましたか。

A

B

C

教科書の内容を理解できましたか。

A

B

C